

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条第 1 項に基づく

中津市教育委員会施策の
点検・評価に関する報告書
(令和 4 年度対象)

令和 5 年 8 月 2 5 日

中津市教育委員会

目 次

I	はじめに	1
1.	目的	1
2.	点検・評価の実施方法等	1
(1)	法定事項	1
(2)	実施方法	1
3.	自己評価及び総合評価の判定基準	2
(1)	自己評価について	2
(2)	総合評価について	2
II	点検・評価	3
1.	施策名と評価一覧	3
2.	評価の分析	5
3.	施策毎の目標、達成状況等	6
(1)	表の見方	6
(2)	各施策の内容	7
III	学識経験を有する者の知見	39
IV	おわりに	44

I はじめに

1. 目的

平成 19 年 6 月に一部改正（平成 20 年 4 月 1 日施行）された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（昭和 31 年法律第 162 号）第 26 条第 1 項の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理・執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとされました。

そこで、中津市教育委員会では、教育委員会が立てた基本方針にそって具体的な教育行政が執行されているかについて、教育委員会自らが事後にチェックし、今後の効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民に対する説明責任を果たすため、この点検・評価を実施し、報告書にとりまとめました。

2. 点検・評価の実施方法等

(1) 法定事項

点検・評価の実施については、次の 4 点が法定事項になっています。

- ①毎年実施すること。
- ②教育委員会の権限に属する事務(教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務を含む。)の管理・執行状況について点検・評価を行うこと。
- ③点検・評価の実施に当たっては、学識経験を有する者の知見の活用を図ること。
- ④点検・評価結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表を行うこと。

(2) 実施方法

①対象期間

令和 4 年度の管理・執行状況

②点検・評価の項目について

中津市教育委員会では、市教育行政の長期的、総合的な指針として、「なかつ安心・元気・未来プラン 2017（第五次中津市総合計画）」及び「第 2 期中津市教育振興基本計画」に基づき各種施策を推進しており、令和 4 年度は重点的な 24 項目について点検・評価を行いました。

③学識経験を有する者の知見の活用について

教育に関し学識経験を有する者の知見活用に当たっては、教育に関して公正な意見を述べるのが期待できる人の知見を活用しました。

④報告・公表方法

点検・評価結果に関する報告書は、定例市議会（教育厚生委員会）に提出し、その後、中津市教育委員会のホームページに公表します。

3. 自己評価及び総合評価の判定基準

(1) 自己評価について

事業主管課長が、適応性・効率性・達成度の3つの着眼点で、5段階で自己評価しました。

評価項目	着 眼 点
適応性	①市民ニーズや社会の変化に対応しているか
	②同じ目的を達成するために他に手段はないか
効率性	③内容の見直しや重点化を行っているか
	④事業の円滑な推進のための調整を行っているか
達成度	⑤当初の目標どおりに進めることができているか

【ランク説明】

ランク	着 眼 点
5	達成（80%以上）
4	着実に進捗（相当程度達成・79～60%）
3	やや不十分（59～40%）
2	不十分（39～20%）
1	抜本的見直しが必要（19～0%）

(2) 総合評価について

教育委員会及び課長級で構成された中津市教育委員会施策評価実行委員会が、目標、達成度、自己評価を総合的に判断して、5段階で総合評価をしました。

ランク	着 眼 点
A	優れた取り組みが多く、十分成果が上がっている
B	優れた取り組みがいくつかあり、成果が見える
C	一定の成果が見られるが、更なる取り組みを要する
D	成果が上がってなく、改善を必要とする
E	抜本的見直しが必要

II 点検・評価

以下に、令和4年度の具体的な施策内容、評価結果などについて報告します。

1. 施策名と評価一覧

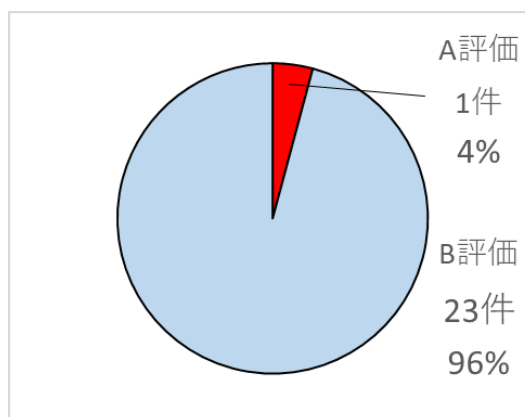
施策別 基本目標	基本姿勢	施策名	自己 評価	総合 評価	所管課
学びたい教育の まちづくり (学校教育)	小・中学校教育の 充実	1 確かな学力の育成	3	B	学校教育課
		2 組織的ないじめ・不登校対策 の推進	3	B	学校教育課
		3 新しい時代に必要な総合力の 育成	4	B	学校教育課
	幼児教育の充実	4 幼稚園教育内容の充実	3	B	学校教育課
	安心安全な学校施設 の計画的整備促進	5 安心安全な学校施設の計画的 整備	5	A	教育総務課
	学校給食の充実	6 地産地消の推進	3	B	体育・給食 課
学びたい教育の まちづくり (生涯学習・産 業教育の推進)	生涯学習の推進	7 生涯学習推進基盤の整備及び 公民館、コミュニティーセン ターの利用促進	3	B	社会教育課
		8 学習機会の拡充と学習効果の 活用	3	B	社会教育課
		9 新中津市学校の活用	4	B	社会教育課
	教育の協働の推進	10 協育による中津の子ども未来 創造事業の充実	3	B	社会教育課
	生涯学習センター「ま なびん館」の充実	11 生涯学習センター事業の推進	4	B	社会教育課
	産業教育の推進	12 体験学習・遠隔講座等を通した未 来を広げるキャリア教育の推進	3	B	学校教育課
		13 多様な体験の場の活用	4	B	社会教育課
	図書館の充実	14 図書館機能の充実	4	B	小幡記念図 書館
15 読書活動の推進		4	B	小幡記念図 書館	

施策別 基本目標	基本姿勢	施策名		自己 評価	総合 評価	所管課
学びたい教育の まちづくり (文化・スポーツの推進)	スポーツの振興	16	生涯スポーツの推進	3	B	体育・給食課
		17	競技力向上及びジュニアの育成	3	B	体育・給食課
		18	市民ニーズに応えるスポーツ施設の整備や多機能多目的な施設利用	3	B	体育・給食課
	文化・芸術活動の推進	19	文化施設の充実	4	B	社会教育課
		20	文化芸術活動の推進	4	B	社会教育課
	歴史と文化の伝承	21	文化財調査の充実と保護の促進	3	B	社会教育課
		22	文化財整備・活用の推進	4	B	社会教育課
		23	博物館を核とした中津市の魅力発信	4	B	社会教育課
	学びたい教育の まちづくり (教育委員会活動の充実)	教育委員会活動の充実	24	教育委員会の機能強化	4	B

2. 評価の分析

教育委員会及び課長級で構成された中津市教育委員会施策評価実行委員会が、目標、達成度、自己評価を総合的に判断して、5段階で総合評価したところ、A評価1件、B評価23件となりました。

各課では教育の向上を図るために、毎年より高い意識を持って施策の目標設定を行っており、その達成に努めています。



ランク	着 眼 点
A	優れた取り組みが多く、十分成果が上がっている
B	優れた取り組みがいくつかあり、成果が見える
C	一定の成果が見られるが、更なる取り組みを要する
D	成果が上がってなく、改善を必要とする
E	抜本的見直しが必要

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が続き、一部の事業は開催を見合わせることもありました。ICTの活用や物理的接触を避けるなどの工夫を凝らし、時々の感染状況に応じた対策を講じることで、24項目の施策は取り組みを進めることが出来ました。前年度、活動の制限を余儀なくされた施策においても、徐々に事業展開が成果として見えてきた状況です。

A評価の施策である「安心安全な学校施設の計画的整備」では、令和3年3月に策定した「中津市学校施設長寿命化計画」に則り、老朽化対策及び教育環境の改善に努めてきました。トイレ洋式化改修事業では、小学校2校（深水小学校、三郷小学校）、中学校1校（耶馬溪中学校）を実施し、令和4年度末には小中学校、幼稚園の校舎内のトイレの洋式化率は100%となりました。また、台風や落雷、大雪などの自然災害により学校が被災した際には、学校運営に影響が出ないように迅速に対応してきました。今後も、計画に則り施設整備を進めるとともに、状況に応じた計画の見直しを随時行っていきます。

その他の施策においては、コロナ禍における状況を慎重に判断し、感染リスクを軽減する工夫を凝らしたことで、多くの事業を実施することが出来ました。

各施策の点検・評価をする中で、さらなる取り組みの強化や手法の改善など、様々な課題が見えてきました。実りある教育行政を実現するため、今後も引き続き高い目標の達成を目指し、施策の設定及び評価を継続して取り組んで参りたいと考えています。

3. 施策毎の目標、達成状況等

(1) 表の見方

表の項目について、大、中、小とありますが、これは、それぞれ大分類（施策別基本目標）、中分類（基本姿勢）、小分類（施策名）を指しています。

大 分 類		中 分 類	
1	学びたい教育のまちづくり (学校教育)	A	小・中学校教育の充実
		B	幼児教育の充実
		C	安心安全な学校施設の計画的整備促進
		D	学校給食の充実
2	学びたい教育のまちづくり (生涯学習・産業教育の推進)	E	生涯学習の推進
		F	教育の協働の推進
		G	生涯学習センター「学びん館」の充実
		H	産業教育の推進
		I	図書館の充実
3	学びたい教育のまちづくり (文化・スポーツの推進)	J	スポーツの振興
		K	文化・芸術活動の推進
		L	歴史と文化の伝承
4	学びたい教育のまちづくり (教育委員会活動の充実)	M	教育委員会活動の充実

(2) 各施策の内容

No	分類			目標
	大	中	小	
1	1	A	確かな学力の育成	<p>「全国学力学習状況調査」で全ての小中学校で全国平均以上を目指す。小学校6年生（国語・算数）、中学校3年生（国語・数学）</p> <p>中津市標準学力調査で、各教科・学年のC層の児童・生徒の割合を減らす。</p> <p>ICT活用教育の推進を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「新大分スタンダード」の徹底・充実による言語能力の更なる育成 ○新学習指導要領の理解と確実な実施 ○小・中連携による、子どもが主体的に学ぶ授業の確立 ○各種学力調査分析・活用による授業改善の推進 ○iPadの日常的な活用の推進

達成状況	R3		R4		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○全国学力学習状況調査で全国平均以上の学校数 小学校 6 年生（国語と算数の合計が全国平均以上の学校数 11 校/21 校 中学校 3 年生（国語と数学の合計が全国平均以上の学校数 5 校/10 校 ○中津市標準学力調査で、各教科・学年の C 層状況 R3 年度（26%～47%）⇒R4 年度（17%～57%） ○ICT 活用教育の推進 授業において児童生徒がタブレット端末などの ICT を使った 学習の実施率 ほぼ毎日・・・90.4% 月 1 以下・・・0%</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性 学力調査結果は、全国平均以上の学校数については、小学校は 11 校と、令和 3 年度の 13 校から減少している。中学校も令和 3 年度の 6 校から 5 校に減少している。学校間で差があるものの全 体としては下降傾向であることから、授業改善と短期集中講座、 補充学習・家庭学習と連動した学力向上の取り組みのサイクルの 徹底を今後さらに図っていく必要がある。また、短期集中講座は 取組期間や内容を見直していく。また、e ライブラリ、県デー タベース、AI ドリル Qubena の活用など、個別最適な学びを保証し、 取組を徹底していく。</p>	4	B	3	B	学校教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
2	1	A	組織的ないじめ・不登校対策の推進	<p>いじめの未然防止及び早期発見・早期対応を徹底する。 (目標値 いじめの解消率 85.0%) 不登校(不登校を理由に年間30日以上欠席)の児童生徒数の減少を目指す。 (目標値 1,000人当たりの不登校数 小学校6.0人 中学校33.0人)</p> <p>○生徒指導の3機能を活かした教育活動の推進(「学びに向かう学校づくり」等) ○校内組織(いじめ・不登校防止対策委員会)の強化、OJTによる学級経営力・児童生徒指導力の育成 ○人間関係づくりプログラムの取組の推進 ○学校とSC(スクール・カウンセラー)、SSW(スクール・ソーシャル・ワーカー)、地域児童生徒支援コーディネーター、教育相談コーディネーター、適応指導教室、関係機関等との連携強化</p>

達成状況	R3		R4		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○いじめの認知件数</p> <p>小学校 R3 1,102件 R4 1,109件 (+7件)</p> <p>中学校 R3 128件 R4 108件 (-20件)</p> <p>○いじめの解消率(いじめのない状態が3か月間継続した状態)</p> <p>小学校 R3 80.5% R4 73.8% (-6.7%)</p> <p>中学校 R3 85.9% R4 66.7% (-19.2%)</p> <p>○不登校(不登校を理由に年間30日以上欠席)の状況にある1,000人当たりの人数の推移</p> <p>小学校 R3 7.4人 R4 9.8人 (+2.4人)</p> <p>中学校 R3 41.3人 R4 33.4人 (-7.9人)</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○小・中ともにいじめの解消率が下降している。未然防止・早期発見・早期対応が重要であり、組織的な対応を図る。特にSNSトラブルは発見・対応に時間を要するため、情報モラル教育の充実を図る。</p> <p>○経験年数の浅い教職員が多いことから、「生徒指導提要」を活用したOJTや研修を充実させ、学級・学年経営力、児童生徒指導力の向上を図る。</p> <p>○「人間関係づくりプログラム」や「情報モラル教育」を通して、いじめ・不登校の未然防止を図る。</p> <p>○不登校児童生徒の思いや困りを把握することに努める。教職員一人での抱え込みを無くし、「組織」、「チーム学校」で対応していくことを徹底させる。</p> <p>○不登校の要因は様々なことが複合している場合もあるため、必要に応じて関係機関(SC、SSW、地域児童生徒コーディネーター、SL、児童相談所、子育て支援課、警察等)と連携する。</p>	3	B	3	B	学校教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
3	1	A	新しい時代に 必要な総 合力の育成	<p>意見や考えを英語で伝え合いたくなる授業づくりを目指す。 中学校でのスピーキングテストを実施する。 学習内容の定着につながる体験的な学習や家庭学習等の連動を図る。</p> <p>○小中の学びをつなぎ、伝え合う意欲と力の向上を図る授業改善 ○ALT を活用した体験学習（英会話教室や APU 交流等）の充実 ○ふるさと学習や総合的な学習での地域探究学習の充実 ○CEFR-A1 レベル相当以上の取得</p>

達成状況	R3		R4		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○求められる英語力を有する(英検3級取得者+3級以上相当の力を有する) 中学3年生の割合が 41.8%⇒48.7%</p> <p>○英検塾のオンライン講座を新設し、参加者の拡充を図った。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の影響で中止していた APU イングリッシュデイキャンプを再開した。(参加者 14名 満足度 100%)</p> <p>○中学生の英会話については昨年同様オンラインで実施 (10名参加 満足度 88%)</p> <p>○わくわく英語ひろば・・・感染症対策・人数制限にて実施 (10名参加 満足度 100%)</p> <p>○中止していた APU イングリッシュデイキャンプを APU の学園祭期間中に開催し、楽しみながら英語を学べる貴重な機会となった。また、小学校教職員対象の「ティーチャーズオンライン英会話教室を開催し、指導者のスキルの向上を図った。</p> <p>○ふるさと学習の一環で取り組んでいる「まちなみ歴史探検」については感染症対策を講じながら全ての小学校で実施できた。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>グローバル人材育成に関する取組については、コロナ禍で実施できるように工夫して実施してきた。特に今年度再開した APU イングリッシュデイキャンプは募集定員を大幅に上回る応募があり抽選となった。参加者にとっても大変貴重な体験となったことが感想からうかがえる。JGL について令和元年度以降募集停止しているが、子どもたちにとって貴重な体験活動の場であったことから今後 JGL 研修の在り方についての検討も必要である。また、求められる英語力を有する中学3年生の割合 50%達成まであと一歩となっている。中学生英検塾を拡充、再周知するとともに、全中学校で実施するスピーキングテストを通して、4技能の向上に向けた中学校の英語の授業改善に取り組んでいく。さらに、ふるさと学習の主な取り組みである「まちなみ歴史探検」についてはポストコロナに合わせて充実させていきたい。</p>	4	B	4	B	学校教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
4	1	B	幼稚園教育 内容の充実	<p>「中津市幼児教育振興プログラム」についての研修・実践交流を推進する。</p> <p>「中津市保幼小連携協議会」の一層の充実、円滑な接続に向けた取り組みの充実を図る。</p> <p>○保幼小の連携の強化に向けた情報共有と接続期カリキュラムの充実。</p> <p>○官民一体となった「中津市乳幼児教育振興プログラムあそびのすすめ」の実践・研修の充実。</p>
5	1	C	安心安全な 学校施設の 計画的整備	<p>令和3年3月に策定した中津市学校施設長寿命化計画の方針に則り、老朽化対策及び教育環境の改善に努めるため、学校施設の長寿命化改修、予防改修、トイレ洋式化改修等を行う。</p> <p>○中津市学校施設長寿命化計画の計画的な実行と進捗管理を行う。</p> <p>○学校施設の長寿命化改修、予防改修、トイレ洋式化改修を実施する。</p> <p>○国庫補助金及び起債による、適切な財源措置を行う。</p>

達成状況	R3		R4		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○令和4年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、「中津市乳幼児教育振興プログラム（あそびのすすめ）」についての研修や、「第1回中津市保幼小連携協議会」が中止となった。また「第2回中津市保幼小連携協議会」は、令和4年度中に保育園やこども園、また幼稚園と小学校間で、支援が必要な園児の情報共有を十分できるように、例年より早めの令和4年12月に開催した。コロナ対策として令和3年度に引き続き、時間を2回に分ける対策を行い、実施した。その中で園児や小学校1年生の様子の情報交換をするとともに、3学期に小学校との交流を計画できた園もあり、円滑な接続に向けての取組ができた。</p> <p>小1プロブレム：令和4年度 5.3%</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○これまで行ってきた保幼小の連携を引き続き進めるとともに、令和5年度は、「幼保小架け橋プログラム」の推進に向けて、5歳児から小学校1年生の2年間のカリキュラムを開発・検討する会を立ち上げ、進めていく。その中で、市内の幼児教育アドバイザーを活用していく。</p> <p>○「幼保小架け橋プログラム」実施に向けて、幼稚園、子ども園、保育園や小学校教員を対象とした研修を計画・実施する。</p>	4	B	3	B	学校教育課
<p>○トイレ洋式化改修を実施。小学校2校（深水小、三郷小）、中学校1校（耶馬溪中）。</p> <p>○教育環境の改善及び省エネルギー化促進のため、学校施設の照明LED化改修を実施。大幡小学校校舎照明、小学校屋内運動場4校（南部小、小楠小、山口小、城井小）、中学校屋内運動場2校（豊陽中、山国中）。</p> <p>○台風、落雷、降雪などの自然災害により学校施設が被害を受けた場合において、学校運営に支障が出ないように迅速な対応を実施。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○国庫補助金を最大限活用し、計画に沿った学校施設の長寿命化、予防改善等の整備を行う。</p> <p>○改修未実施の体育館・武道場、屋外トイレの洋式化改修を段階的に実施する。（令和5年度は和田小学校、沖代小学校、豊陽中学校の屋外トイレを改修予定）</p> <p>○計画策定時点から、さらに老朽化が進んでいる施設や設備を見落とさないように注視することや、自然災害による損壊なども視野に入れ、実情に応じた計画の見直しを随時行っていく必要がある。</p>	5	A	5	A	教育総務課

No	分類			目 標
	大	中	小	
6	1	D	地産地消の推進	<p>JA や漁協、市の関係各課等と連携を密にして地場産野菜等の品目と使用量の拡大を図る。 新たな生産者組織や後継者の育成等を関係機関と協議する。また、なかつ6次産業推奨品の活用に向け協議を行う。</p> <p>○学校給食地産地消推進会議等を実施し、地場産食材の利用拡大や生産者の育成等に向けて農政水産担当部署、JA、漁協、生産者等の関係機関と協議を行う。</p> <p>○なかつ6次産業推奨品の活用に向け、農政振興課と連携し情報共有を行いながら、関係機関と各共同調理場との協議の場を設ける。</p> <p>○地場産食材を活用した新献立を継続して開発する。</p> <p>○地産地消献立を通じて、子どもたちに学習意欲や郷土関心を感じさせる工夫に努める。</p>
7	2	E	生涯学習推進基盤の整備及び公民館、コミュニティーセンターの利用促進	<p>公民館、コミュニティーセンターの利用者の確保。自主サークル活動の育成。公民館、コミュニティーセンター等、社会教育施設の整備を図る。</p> <p>○住民ニーズの把握と新規学習内容の開拓による魅力ある学習内容の提供と利用の啓発。</p> <p>○サークルの活動、募集の支援及び新規サークルの立ち上げ支援。</p> <p>○耶馬溪公民館整備事業（解体・造成）。</p> <p>○その他老朽化した公民館の設備等の改修。</p>

達成状況	R3		R4		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○R4 年度も、引き続きコロナウイルス感染拡大の影響が残る中であったため、学校給食地産地消推進会議を開催せず、JA、漁協、また市内の生産者と直接交渉を行い、学校給食への納品に向け協議を行った。</p> <p>○新たに中津市の農産物を使って加工品づくりを行うグループ「おはら果樹園大分・工房たまてばこ」の加工品で、なかつ6次産業推奨品でもある「おいしいこめみそ」の給食への活用について農政振興課と協議を行い、結果として農政振興課からのなかつ6次産業PR補助金を活用し、献立に取り入れることが出来た。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性 より多くの地元産食材を効率よく使用できるよう、規格の調整等、各関係機関と各共同調理場で個別に協議を行っていくことが必要である。また、地元生産者との直接契約についても検討し、地場産物の利用拡大に向けて取り組む必要がある。 現状として、なかつ6次産業推奨品の給食への利用は「おいしいこめみそ」のみのため、市関係部局と継続的な協議を行い、その他の推奨品の利用について検討を重ねていく。 引き続き、他市の地産地消の取り組みの状況を参考にしながら、各関係機関と連携し、より多く子供たちに安全で安心な地元食材を提供できるように、工夫していきたい。</p>	3	B	3	B	体育・給食課
<p>○公民館、コミュニティーセンター（山国公民館除く）の年間利用者数は、136,104人（R3 109,673人）で、昨年より増加している。新型コロナ感染防止対策をとったこと、館長を中心に呼びかけやPR活動を行ったことなどが理由として考えられる。しかし、感染を恐れてまだ自宅に籠っている人も多いと考えられる。コロナ以前に比べるとまだ半数ほどである。</p> <p>○市主催の公民館講座等、どこの講座学習参加者も例年より少ない状況で、自主サークル活動においても一年間の活動を中止するところもあった。また、再開しても構成員の自粛により、参加者は減少する傾向にある。</p> <p>○公民館祭りは、時間の短縮、感染対策を取るなど運営委員会で十分に話し合いを行い、5つの公民館で実施をした。また、公民館祭りに代わり、地域の防災訓練を実施した公民館もあった。</p> <p>○公民館、コミュニティーセンターの建設事業については、計画通り進行することができた。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性 基本的な感染防止対策（三密の回避、換気、手洗い等）を徹底しながら、アフターコロナ期の公民館活動のあり方を模索し、現在自粛をして家に引きこもりがちになっている高齢者などが再び戻ってくるような公民館運営を工夫していく必要がある。もう一度公民館に足を運んでもらえるように社会教育主事が各公民館を巡回し、利用者増加に向けて講座生や館長と対策を練る。 施設整備においては、耶馬溪公民館の建築を行う。また老朽化施設の設備等の改修をなど十分に検討し必要に応じ行う。</p>	3	B	3	B	社会教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
8	2	E	学習機会の拡充と学習効果の活用	<p>ウィズコロナ下での生涯学習を推進し、学びを通じた社会に貢献できる人材の育成や、「ふるさと学習」の推進を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○感染予防対策をとりながら、工夫した取り組みにより生涯学習の機会を増やす。 ○学んだ成果を活かせる場を、地域学校共同活動を中心につくっていく。 ○子どもたちが安全、安心に参加でき、体験活動を重視した「ふるさと学習」の実施。 (福澤諭吉記念事業、子ども中津検定・ジュニア諭吉検定、ワンパク！たんけん中津、青少年地域活動事業、中津ジュニア歴史ガイド育成、公民館独自講座 等)
9	2	E	新中津市学校の活用	<p>市民講座の開催（市民講座：3回、高校生向け講座：2回、親子市民講座）。慶應義塾大学との共同研究の推進。歴史資料の保存活用・公開</p> <ul style="list-style-type: none"> ○慶應義塾より講師を招聘し、市民講座（全3回）、高校生向け講座（全2回）を開催する。 ○不滅の福澤プロジェクトと連携して事業に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ・福澤諭吉や福澤門下生に関することなど様々なテーマで、親子と一緒に学ぶ機会を提供する講座を開催する。 ・英語教育への取り組みとして、「中津留別之書」翻訳本を利用し、英語スピーチ大会を開催する。 ○慶應義塾大学との共同研究として「小幡篤次郎関係資料整理」「小幡著作整理作業」「渡辺家資料整理」を行う。 ○市民の利用促進に向け、各種媒体を活用した広報活動、学校、各種団体への周知等を行なう。

達成状況	R3		R4		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○公民館、コミュニティーセンターでの主催講座は、昨年より参加数は増えたものの、コロナ前に比べると半数ほどである。</p> <p>○「ふるさと学習」の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福澤諭吉記念事業は全国高等学校弁論大会に留学生弁士（ミャンマー）も含めて 29 人が出場、近郊小中学校書写展では 1,635 点の応募、諭吉かるた大会は低学年 12 チーム、高学年 15 チームが参加。 ・子ども中津検定は 23 人受験、ジュニア諭吉検定は 11 人受験。 ・ワンパク！たんけん中津は耶馬溪、山国が対象地域で感染対策を取りながら 1泊2日 で実施をすることができた（19 人参加）。 ・青少年地域活動の三保人形劇クラブは 4 人、「おおいた教育の日」「万年願」で練習成果を披露することができた。 ・中津ジュニア歴史ガイドは 3 人の小学生が 3 月の城下町ウォークラリーで実際にガイドを行った。 <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>自粛により、学習活動に参加しない高齢者がまだまだ多いところが課題である。この 1 年で感染防止対策を徹底しながらも、創意工夫により効果的な活動が展開できることが見えてきた。ウィズコロナ、アフターコロナ下における生涯学習の推進という新たな課題に取り組みながら、学習機会の充実と学習効果の活用を図っていきたい。</p>	4	B	3	B	社会教育課
<p>○慶應義塾より講師を招聘し、市民講座（全 3 回）、高校生向け講座（1 回）開催した。</p> <p>○不滅の福澤プロジェクトと連携して事業に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・永松茂久氏を講師に、中高生及びその保護者を対象とした市民講座を開催した。 ・不滅の福澤プロジェクトの様々な事業の実施に際し、専門的知識に基づく助言や画像使用承認に係る手続等を行った。 <p>○慶應義塾大学との共同研究として「小幡篤次郎関係資料整理」「小幡著作整理作業」「渡辺家資料整理」を行うとともに、歴史博物館や福澤記念館と連携して企画展を行い、市民への還元に努めた。</p> <p>○南部小学校児童への福澤先生自筆原稿の公開や中津学（生涯学習大学）での講演などの外部対応により、新中津市学校の周知・福澤先生の顕彰に努めた。</p> <p>○令和 4 年度の利用者数は 8,739 人で前年度比 114%となった。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○慶應義塾より講師を招聘し市民講座（全 3 回）、高校生向け講座（全 2 回）を開催する。</p> <p>○不滅の福澤プロジェクトの推進に各課と連携しながら取り組む。</p> <p>○偉人顕彰事業である小幡篤次郎・渡辺家の共同研究を引き続き進め、研究成果を展示や講座等で市民へ還元する。</p> <p>○人材育成・共同研究・学習交流・市民参加を一層進めるため、慶應義塾との連携を引き続き深める。</p>	5	B	4	B	社会教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
10	2	F	協育による 中津の子ども 未来創造 事業の充実	<p>コミュニティ・スクール導入校における効果的なネットワーク会議との連携を促進する。また、感染予防対策を取りながら、地域と学校の協働により、学校内外での子どもの育成を推進する。</p> <p>中津市PTA 連合会と連携し「家庭教育ノススメ」を重要な目標の一つに位置付け、より良い親子関係が気付けるようにする。</p> <p>○コミュニティ・スクールを推進する中で、従来の校区ネットワーク会議との効果的な連携の方策を協育コーディネーターを介して把握し、学校運営協議会と校区ネットワーク会議の効果的な連携のしくみを構築していく。</p> <p>○支援者や学校、児童クラブと十分に連携を図り、子どもたちの安全、安心を確保しつつ、学校支援活動、学習支援活動、放課後や週末の体験活動の充実を図る。</p>

達成状況	R3		R4		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○学びのススメ土曜塾では、実施校区を令和3年度より全中学校区に広げ10校で実施した。(土曜塾実績…10校、講師17人、生徒94人、31回実施)</p> <p>○コロナの感染状況を見ながら、外部の人を入れることができるだけ控えるという学校の感染防止対策により学校支援活動は始まったが、学校との協議により中止した活動もあった。(学校支援活動年間実績…年間支援回数1,484回、支援者数10,007人(R3 1,026回、9,277人))</p> <p>○放課後子ども教室は、放課後や土曜日に地域住民と子どもが交流する活動のため、事前のコーディネーターとの感染防止対策の協議、予防グッズの準備などを行い、実施をすることができた。(放課後子ども教室年間実績…23教室、569回、大人実数190人、子ども実数621人(R3 24教室、571回、124人、子ども755人)) 活動回数は、やや減少しているが、感染防止対策が可能な活動は、コーディネーターや指導者の管理もと、安全に実施できた。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○学校支援活動は、感染防止対策について学校と情報交換しながら、安全面に配慮して実施していく。放課後子ども教室はコーディネーターに指導、助言をしながら、同じく安全面に配慮して実施していく。また、コーディネーターの高齢化が懸念される。計画的にコーディネーターを育成していくことが必要である。</p> <p>○コミュニティ・スクールとの関係については、運営する上で、学校と地域をつなぐコーディネーターの役割が重要となるので、学校運営協議会の委員に協育コーディネーター(館長)を配置し、学校支援活動を行うための校区ネットワーク会議と効果的な連携を図り、コミュニティ・スクールを活性化させていく。また、家庭教育については、『家庭教育ノススメ』の周知と実践につながる取り組みを行っていく。</p>	3	B	3	B	社会教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
11	2	G	生涯学習センター事業の推進	<p>通年・短期講座受講の確保や中津市生涯学習大学の充実と受講者の確保並びに、利用サークルの確保。</p> <p>○ニーズの把握による開設講座の見直しと学習内容の充実。 ○新規講師の開拓。 ○感染拡大防止対策を取りながらも、学習しやすい施設、設備の充実と日常の安全、安心な環境整備。</p>
12	2	H	体験学習・遠隔講座等を通じた未来を広げるキャリア教育の推進	<p>職場訪問・職場体験の充実を図る。また、「中学生のハローワーク」の活用の推進や遠隔講座等を通じた未来を広げるキャリア教育の推進を図る。</p> <p>個人用タブレット端末を活用したキャリア教育を充実させる。</p> <p>○関係団体との積極的な連携 ○短期大学等との積極的な連携</p>

達成状況	R3		R4		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○生涯学習センターの年間利用者数は、延べ 21,002 人（R3 19,055 人）で、昨年より 2,000 人ほど増えている。</p> <p>○通年・短期講座は新規講座を増やし、「まなびん講座」として名称を変更して年間を通して開講した。「まなびん講座」とサークル活動による発表会「まなびんフェスタ」も 4 年ぶりに規模を縮小して開催して、作品展、抹茶接待には多くの来館者があった。</p> <p>○中津市生涯学習大学の受講者実人数は 472 人（平均年齢 72 歳）で、前年度並みで、コロナ禍ではあったが減少はなかった。コロナにより中止をしていた 4 月の開講式は、参加者を限定して実施し、3 月の中津文化会館での閉講式・大学祭も 4 年ぶりの開催となったが、受講生の積極的な参加により、盛会であった。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>3 年にわたるコロナの影響で、学の間から離れる人が増えており、特に高齢者は過度の自粛により家に引きこもりがちになり、運動機能や認知機能の低下、心理的な不安などが新たな問題となってきている。</p> <p>今後は生涯学習センターにおいてウィズコロナ、アフターコロナの時代における生涯学習を推進し、学ぶ意欲を持った市民に対して、個々の学びが自分の生きがいにつながるような施設づくりをさらにすすめる。また、学びから遠ざかっている市民、学ぶ場を知らない市民に対しては、積極的に情報発信を行い、学びを再開させる。</p>	3	B	4	B	社会教育課
<p>○令和 4 年度も、新型コロナウイルス感染の拡大を受け、約半数の学校の実施となったが、令和 3 年度と同様に各中学校で資料や ICT を活用し、創意工夫して行うことで職業観を養うことができた。「中学生のハローワーク」については、職場訪問が実施できなかった学校での活用が進んでいない。</p> <p>○短期大学とは、小楠小と和田小が、工科短期大学のものづくり教室において体験学習を行う等、連携を深め、新たな取り組みを進めているところである。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>令和 4 年度までは、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、児童生徒の職場体験や施設訪問が縮小され、実体験を通じた十分なキャリア教育の実施が難しかったが、令和 5 年度からは with コロナとなり本物の体験や経験を大切にしたキャリア教育を拡充させていくことができると考える。また、コロナ禍の中で培った ICT 活用等多様な方法で実施したキャリア教育の良さも今後に生かしながら、充実したキャリア教育の実施を目指していく。</p>	3	B	3	B	学校教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
13	2	H	多様な体験の場の活用	<p>子どもたちが、正しい職業観を身につけ、自分の将来を考える時に選択の幅が広がるような学校以外での多様な体験の場を提供する。</p> <p>○「職人フェスティバル」の実施。 ○少年少女発明クラブの充実。</p>

達成状況	R3		R4		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○職人フェスティバルは、10月9日（日）に実施。参加者数は1,200人。有料ブースは46箇所（1回1,000円）参加者数486人。無料ブースは20ブース。ステージイベントとして大工の神業「カンナの薄削り」を実施し、子ども達も体験をすることができた。無料の体験ブースコーナーでは、高校生や大学生が7つのブースを担当し、子どもたちがたくさん集まっていた。将来のモデルになったと感じた。</p> <p>○中津少年少女発明クラブは、6月11日（土）に開講（開催場所：生涯学習センター）し、年間10回の講座を開催した。5年生11人6年生15人の合計26人の参加があった。全員が発明工夫展に作品を出品することができた。その中で、大分県発明工夫展入選2人、全日本発明工夫展入選1人と結果が出たことも良かった。また、合宿学習では、自分が作った作品を論理的にみんなの前で発表することができ、自信につながった。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○職人フェスティバルについては、コロナの感染拡大状況を注視しながら開催日を設定する。10月に開催予定。地方創生事業により交付金を3年間受ける。（通常500千円＋交付金500千円）交付金の利用内容は次のことを計画している。</p> <p>（1）中津市にゆかりのある医療関係の偉人を知る。 R5 天然痘と戦った辛島正庵</p> <p>（2）最先端の技術に触れる Pepperくん（AI技術とプログラミング）他</p> <p>○発明クラブは、6月から月1回開催していく方向である。年間11回の開催を目指している。職人フェスティバルへの講師の協力を行う。</p>	3	B	4	B	社会教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
14	2	I	図書館機能の充実	<p>安心して来館できる環境づくりを目指し、市民ニーズに沿った図書館運営と利用率の向上、社会教育課等と連携し、近隣文化施設との動線づくりを図る。また、R3年度に実施したアンケートを参考に新規利用者の獲得のための手段や情報発信の方法について検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コロナ感染状況などの情報収集を行い、安心安全な開館運営を行う。 ○学校・ボランティア等と連携し、調べ学習や読み聞かせ資料の充実を図る。 ○近隣文化施設と連携した企画展示等を行うことで図書館利用の促進を図る。 ○移動図書館のサービスポイント見直しや、来館することが難しい高齢者施設等を対象に団体貸出の要望調査を行う。 ○SNS など有効な手段を用いて情報発信を行うことで、コロナで足が遠のいている利用者や今まで図書館を利用していない市民に図書館の魅力やサービスなどを周知し、利用者増を図る。
15	2	I	読書活動の推進	<p>安心して来館できる環境づくりを目指し、学校図書館やボランティアグループなどとの連携による読書活動の推進、新中津市学校、村上記念童心館等の近隣文化施設と連携し読書の促進を図る。また、読み聞かせ事業や読書週間行事の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コロナ感染状況などの情報収集を行い、安心安全な開館運営を行う。 ○おはなし会や赤ちゃん絵本事業を通じて乳幼児期から絵本に触れる機会を提供し、習慣づけることで読書活動を推進する。 ○不滅の福澤プロジェクトや読書週間等の読書イベント・図書館講座等で関連図書を展示、紹介することにより読書活動を推進する。 ○HP や図書館だよりなどで、イベント情報、新刊案内など読書推進に関する情報発信を行う。 ○学校司書や読み聞かせボランティアと連携を密にし、子どもの読書活動の推進を図る。 ○アンケートでニーズの高かったものについて、実施の検討をする。

達成状況	R3		R4		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○コロナの感染状況に応じた感染対策や図書館運営、利用者のニーズに沿った図書館サービスの提供、図書館だより等によるイベントや図書館サービスのPR、近隣文化施設との連携、団体貸出のPRなどにより目標はおおむね達成した。</p> <p>○SNS（市の公式ツイッターや、くろかんくん Instagram）に図書館だよりやイベント情報の投稿を開始し、PRを強化した。</p> <p>【年間延べ貸出冊数、延べ利用者数の比較】 個人利用 R3 452,929冊、102,327人→ R4 433,781冊、104,866人（前年比 △19,148冊、+2,539人） 団体貸出 R3 50,342冊、2,244団体→ R4 52,679冊、2,517団体（前年比 +2,337冊、+273団体）※R4新規登録5団体 【なかはくとの連携企画展示】 令和4年度 5回実施（貸出数 延べ206冊）</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○現在の場所に移転開館して30年が経過し、施設の老朽化が目立つ。利用者が安心安全に、また快適に過ごせるよう図書館施設や設備の修繕・更新を行っていく必要がある。</p> <p>○利用者の利便性の向上を図り、利用者の満足度を高める。どの世代にも図書館を利用したいと思われる取り組みを行う必要がある。</p>	4	B	4	B	小幡記念図書館
<p>○コロナ対策をしながら、今年度は本館、分館すべての館で読書週間イベントや夏休みの工作等を行うことができた。また、多くの小学校の社会見学や中学校の職場体験を受入れることで、図書館を身近に感じてもらうことができた。今年度、初めて中津支援学校高等部の現場実習の受入れ希望があり、2週間と比較的長期間であったが生徒や保護者、学校にも満足してもらえた。</p> <p>○不滅の福澤プロジェクト関連企画（7企画）、図書館講座（4講座）、なかはくとの連携企画（5企画）等を実施し、関連図書を展示して貸出しにつなげた。</p> <p>○おはなし会等の申込みの電子申請を可能にし、利用促進に努めた。市内の児童館や子育て支援センターを訪問し、おはなし会のPRを行った。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○令和5年は、第2次子ども読書活動推進実施計画の計画最終年となるため、取組みの成果や課題を取りまとめ、次期計画を策定する必要がある。令和4年度の担当者会議で共有したスケジュール等に基づき、関係課等と完成を目指す。</p> <p>○子どもが絵本に興味を示すきっかけや絵本に親しむ機会の創出となるよう、図書館移転30周年記念の講演会を成功させる。</p> <p>○引き続き、各種イベントを実施し、読書活動につなげる。特に、不滅の福澤プロジェクトで図書館においても、郷土の偉人「福澤諭吉」を知る機会を創出する。</p>	4	B	4	B	小幡記念図書館

No	分類			目 標
	大	中	小	
16	3	J	生涯スポーツの推進	<p>大人から子供まで加入することができ、色々なスポーツを選べる総合型地域スポーツクラブの創設に向けて取り組む。また、様々なスポーツイベントを開催し、スポーツに触れあえる機会を増やし、定住圏域住民のスポーツ振興を図る。</p> <p>○5月の最終水曜日を「健康づくりの日」として施設の開放を行い、市民の健康づくりをサポートする。</p> <p>○市内の体育施設を利用して、様々なスポーツ大会や各カテゴリーの大会を誘致し、誰もが身近にスポーツと接する機会を増やす。</p> <p>○定住圏域住民を含め、広く誰もが参加できるスポーツイベントを開催する。</p>
17	3	J	競技力向上及びジュニアの育成	<p>市スポーツ協会や競技団体、学校、地域、企業などが連携し、人材の育成・強化に努める。</p> <p>○競技力の向上及び優秀な選手やジュニアの育成のために、優れた指導者の確保や育成が必要であり、全ての競技団体に「公認スポーツ指導者」や「スタートコーチ」、「コーチングアシスタント」等の資格取得を支援・推進していく。</p>
18	3	J	市民ニーズに応えるスポーツ施設の整備や多機能多目的な施設利用	<p>市民のスポーツニーズに対応した施設の整備を行うことで、施設利用満足度を高め、多機能多目的な施設利用に柔軟に対応し、利便性の向上を図る。</p> <p>○誰もが、どこでも、安全に、安心してスポーツに親しむことのできる環境づくりを計画して行く。</p> <p>○市民要望の高い種目や競技に対応する施設整備及び、多機能多目的な施設利用対してのルール作り等を行っていく。</p>

達成状況	R3		R4		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○新型コロナウイルス感染症対策を講じ、八面山平和マラソン大会(4月)、キッズボールパーク(8月)、オリンピックデーラン(11月)、中津市民講座(12月)、福岡ソフトバンクホークス甲斐拓也選手自主トレ(1月)を開催し、スポーツに触れ合う機会の創出が図れた。</p> <p>○新型コロナウイルス感染状況をその都度施設利用基準や大会開催基準などを協議し、スポーツを行える環境の確保に努めた。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○今後も様々なスポーツイベントを開催し、スポーツに触れ合える機会を増やす。</p>	3	B	3	B	体育・給食課
<p>○スポーツ少年団の説明会において、指導者資格の説明を行い、制度への理解と資格取得、更新の手続き等を促した。</p> <p>○8月には市独自のスポーツ少年団指導者・スタッフ研修会を行い、子どもたちにとってより良いスポーツ環境を提供できるよう啓発を行った。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○競技団体へは指導者資格の取得やスポーツ少年団への加入を推進していく。</p> <p>○指導者や保護者、関係者向けの指導に関する講習会を定期的実施し、研修の場を設ける。</p>	3	B	3	B	体育・給食課
<p>○利用者ニーズを踏まえ、施設整備や施設の利便性向上のための改修や修繕を実施。</p> <p>○耶馬溪 B&G 海洋センターを簡易宿泊所に改修し、利用者の利便性の向上に努めた。</p> <p>○令和3年度に被災した三光総合運動公園多目的広場の陸上トラックの改修工事を行った。</p> <p>○やまくにスポーツパーク体育館 LED 改修工事を行った。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○今後も誰もが、どこでも、安全に、安心してスポーツに親しむことのできる環境づくりを行っていく。</p> <p>○市民のスポーツニーズに沿った市の振興に繋がるような施設にすべく整備を行っていく。</p> <p>○将来の財政負担や利用見込み等総合的要素を勘案した施設となるよう検討していく。</p>	4	B	3	B	体育・給食課

No	分類			目 標
	大	中	小	
19	3	K	文化施設の充実	<p>市民生活の質を高め、楽しめる文化的環境づくりを推進する。また、文化芸術活動の場としての施設の整備・充実に努める。</p> <p>○子どもから高齢者まで全ての市民が、鑑賞や自らの発表の場として文化施設を活用できるよう、施設の充実、利用機会の拡充に努める。</p> <p>○建設後 43 年経過（昭和 54 年竣工）している中津文化会館について、市民が安全にかつ快適に施設を利用できるよう、老朽箇所等について必要な改修等を行う。また、将来的な建て替えに向けた議論を進めるため、情報収集等を行う。</p> <p>【R4 年度中津文化会館整備予定】非常扉更新工事、舞台吊物操作盤更新工事、パーテーション更新工事</p>
20	3	K	文化芸術活動の推進	<p>国民文化祭で醸成した文化振興への機運を活かしながら、市民ニーズを反映した文化芸術の取り組みを行うとともに、文化芸術団体との連携を強化する。また、東アジア文化都市交流事業でも関係都市と連携し事業に取り組んでいく。</p> <p>各施設においては、多様な文化・芸術活動を展開しているが、より多くの市民が、質の高い芸術文化に親しむ場、また自らの活動の発表の場としても利用できるよう、情報の発信と活動の充実に努める。</p> <p>○中津文化会館、リル・ドリームについては昨年度と同様に、指定管理者に「市民ニーズの把握とイベントの検証による事業の発展」「収益率と使用率の向上」「職員の育成、組織力強化」「安心・元気・未来プランの推進」を条件に附しており、市も協力して取り組む。</p> <p>○木村記念美術館については、これまでの取り組みを継続するとともに、中津市歴史博物館と連携し合同企画展等を実施するなど、事業のさらなる充実強化を図る。</p> <p>○市報や HP、ラジオ等、あらゆる媒体を利用して、中津市の文化・芸術活動の情報発信を行う。</p>

達成状況	R3		R4		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○中津文化会館及びリル・ドリームについて非常扉更新工事、その他必要な設備修繕を行い、幅広い年齢層の利用者が快適に使用できるよう整備に努めた。</p> <p>○中津文化会館の将来的な建て替えに向けた議論を進めるため、各市の文化会館・ホール状況や建替え・長寿命化に係る費用の試算を行い、庁内（公共施設マネジメント推進委員会等）で情報共有を行った。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○安心して文化芸術を楽しむために設備の充実や安全性は重要な要素となる。</p> <p>○老朽化する施設の安全性を維持するために、整備の必要性や優先度を十分に検討し計画的に対応していく。</p> <p>○中津文化会館、リル・ドリームの次期指定管理者選定に向け、検討・必要な手続きを行う。</p> <p>○中津文化会館の将来的な建替えに向けた議論を進めるため、必要な情報収集等を引き続き行う。</p>	4	B	4	B	社会教育課
<p>○中津文化会館、リル・ドリームにおいては、換気や人数制限等の感染対策を行いつつイベントを実施することができた。</p> <p>○木村記念美術館においては、「武田由平展」などの美術企画展を3回、東アジア文化都市事業として「パク・ソンヨン展」を開催するほか、ワークショップや学校への出前授業を行った。</p> <p>○市報・HP・Twitterによる広報活動により、市内外からの誘客につなげた。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○文化芸術団体等との連携を深め、感染症拡大防止に配慮しながら、文化芸術の振興活動をすすめていく。</p> <p>○国民文化祭で醸成した文化振興への機運と、東アジア文化都市事業のレガシーを継承した取り組みを充実させ、芸術文化による地域振興を図る。</p> <p>○木村記念美術館については、これまでの取り組みを継続するとともに、歴史博物館や美術団体との連携等により、事業のさらなる充実強化を図る。</p>	4	B	4	B	社会教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
21	3	L	文化財調査の充実と保護の促進	<p>有形・無形・埋蔵文化財の調査・実態把握に努める。また、文化財保護の活動に市民の巻き込みを図る。</p> <p>歴史遺産を未来へ伝えるため、市が目指す将来的なビジョンや具体的な事業等の実施計画を定める「文化財保存地域計画」策定作業を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文化財の調査・研究を行い、調査成果を博物館企画展や調査報告書の刊行に活かす。 ○学校教育との連携や博物館活動、史跡整備等の機会を活かして、文化財保護精神の醸成を促す活動を行う。 ○「文化財保存活用地域計画」の令和5年度刊行を目指し、令和4年度末までに計画書の原稿をとりまとめる。

達成状況	R3		R4		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○有形・無形・埋蔵文化財等の調査をすすめ、調査成果は企画展や報告書で積極的に公開した。白髭神社大名行列の調査においては、調査成果をもとに大名行列を無形民俗文化財に、神楽面を有形文化財候補として教育委員会より文化財調査委員会に諮問した。</p> <p>○春には沖代条里の土水路に生息する希少生物調査に小学生たちに参加を促した他、古代ゾーンを歩きながら今後の整備活用を考える「ブラコダイ」を開催した。秋の文化財保護強調週間には石垣清掃を組み込んだイベントを開催し、冬には整備中の長者屋敷官衙遺跡で古代の測量技術を体験しながら史跡整備への意見を聞くイベントを実施した。</p> <p>○地域計画は県・文化庁と協議して全体スケジュールの見直しを行い、令和5年度原稿完成、令和6年度に文化庁に提出することとなった。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○文化財を未来へ継承するために、子供の頃から日常的に文化財に触れる環境をつくるのが大切であり、史跡整備も市民が関わることで保護・活用していく気持ちが育まれる。今後も市民を巻き込む取組を進めるとともに、文化財とともに生きるまちづくりを目標とした地域計画を策定する。</p>	4	B	3	B	社会教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
22	3	L	文化財整備・活用の推進	<p>各種文化財の整備活用を通して地域への誇りと愛着を育てる。また、文化財の公開・活用・情報発信に努め、文化財の価値の周知をはかる。</p> <p>○薦神社・神尾家住宅の修理事業を実施し、可能なものについては情報公開・経過の公開を行う。</p> <p>○福澤諭吉旧居は令和5年6年に予定されている保存管理活用計画策定の下準備を進める。</p> <p>○長者屋敷官衙遺跡の整備を進めるとともに、市民に愛される史跡公園を目指してⅡ期工事の整備方針の検討を行う。</p> <p>○慶應義塾大学と連携した中津の偉人の調査をはじめ、各分野の調査研究の成果を、刊行物や展示、講座等を通じて、市民に還元する。</p> <p>○SNS やメディアを積極的に活用する。</p>

達成状況	R3		R4		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○薦神社・神尾家とも計画通り事業を実施した。修理現場の公開は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から不特定多数を対象とした開催はできなかったが、重要文化財薦神社神門修理委員と報道機関、神尾家のある地元小学校の児童・先生に公開を行った。</p> <p>○福澤諭吉旧居は大分県文化課と文化財建造物保存技術協会と協議し、令和5年度からの保存活用計画策定の下準備を行った。</p> <p>○長者屋敷官衙遺跡は重要遺構発見が大きく報道され、一般公開には大勢の見学者が訪れた。整備指導委員会を開催し、調査成果をもとにⅡ期計画の見直しに着手している。</p> <p>○福澤諭吉をはじめとした中津の偉人の調査研究の成果は、企画展や講座、マップ制作等様々な形で公開している。</p> <p>○定例記者会見やSNSとあわせ、WEBメディアへの持ち込み企画など、積極的に活用した。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○令和6年度に一万円札肖像変更をひかえた令和5年度は、福澤諭吉旧居周辺一帯の保存管理活用計画を立てる重要な年である。長者屋敷官衙遺跡も令和4年度調査成果をもとにこれまでの計画の見直しを行い、中長期計画の具体案を作成しなければならない。国指定文化財の管理者として、国県と連携した着実な事業推進を行う必要がある。</p>	4	B	4	B	社会教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
23	3	L	博物館を核とした中津市の魅力発信	<p>調査成果を基にした魅力的な企画展を開催するとともに、観光部局との連携を強化する。また、民間が運営に参加する参加型なかはくを目指す。 市内各館と連携した魅力を発信する。</p> <p>○名勝耶馬溪指定 100 年に向けて城下町と耶馬溪をつなぐ取り組みを進める。 ○学校教育との連携強化。 ○観光部局と連携して、情報発信や「三津同盟」事業を推進する。 ○民間が主催者側に立つ企画開催を推進する。 ○耶馬溪風物館・大江医家史料館・村上医家史料館の運営方針を検討する。</p>

達成状況	R3		R4		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○年度末（令和5年3月）の名勝耶馬溪指定100周年をゴールとして一年間の5つの企画展を「大耶馬溪博覧会」の統一テーマで開催した。奇岩の溪谷耶馬溪が観光地となっていく物語を一年かけて紹介し、好評を博した。</p> <p>○企画展と連動して県の子供学芸員事業が開催され、学校と連携しながら積極的に協力した。</p> <p>○三津同盟は津和野町でのシンポジウムを開催し、令和5年度の3市町巡回展の事業を決定。観光部局も津山市・津和野町と交流が生まれている。</p> <p>○名勝耶馬溪100周年を祝う事業や、やばはく開催等、観光部局や市民と連携しながら事業を推進した。</p> <p>○マルシェ・JAZZコンサート・琴の演奏等、市民主催の事業を開催し、多くの来館者を得た。</p> <p>○各館の今後について検討した結果、耶馬溪風物館を日本遺産ガイドランス施設として無料化することが決定した。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性 新型コロナウイルス感染拡大の沈静化により、博物館の今後の活動や運営方針を一旦見直し整理する必要がある。耶馬溪風物館は無料化となったことから「日本遺産ガイドランス施設・道の駅の観光拠点施設」としての機能強化が求められる。観光部局と協力しながら、各館や観光スポットと連携し事業効果を高めていきたい。</p>	4	B	4	B	社会教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
24	4	M	教育委員会の機能強化	<p>総合教育会議等を通じて市長と教育委員会が緊密な連携をとり、両者が教育行政の方向性を共有し、より一層地域住民の意向を反映した教育行政の推進を図っており、引き続き市長部局との連携強化を行う。また、教育現場の実態把握と関係機関との意見交換、教育委員の視察、研修機会の拡充を図る。</p> <p>○総合教育会議など、市長と教育委員会が連携を図れる会議等を開催する。</p> <p>○学校現場を訪問するなどして、県等関係機関と教育行政についての意見交換を行う。</p> <p>○先進地視察など教育委員の研修機会の拡充に努め教育行政について研鑽を重ねる。</p>

達成状況	R3		R4		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○令和5年2月3日（金）に総合教育会議を開催し、協議を行った。</p> <p>○令和4年7月4日～7日（前期）、令和4年10月20日から11月11日にかけて9日間（後期）の日程で各小・中学校及び幼稚園への訪問を実施した。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○総合教育会議では、教育現場における喫緊の課題や、取り組みの成果など、様々な議題について協議や情報共有を行っていく。市長部局と教育委員会が共通の認識を持てるように連携を図ることで、課題に対して迅速な対応が出来る体制を構築していく。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことにより、今後は基本的感染対策を実施しながら、学校訪問や先進地視察を実施していく。教育現場を取り巻く問題や課題を認識することや、先進地の取り組みを研究することで、教育行政の推進につなげていく。</p>	4	B	4	B	教育総務課

Ⅲ 学識経験を有する者の知見

大分大学教育学部 教授 伊藤安浩

まず、報告書から読み取れる限りにおいて、各施策の達成状況についての所見を述べます。

1. 学びたい教育のまちづくり（学校教育）

A 小・中学校教育の充実

・確かな学力の育成

全国学力・学習状況調査において、すべての小中学校で全国平均以上を目指すという目標に対して、小学校は令和3年度の13校から11校への減少、中学校も同様に6校から5校への減少という結果となりました。特に小学校は、令和2年度からの推移を見たときに減少傾向が明らかで、確かな学力の育成のための取組の充実が望まれます。また、中津市標準学力調査において、令和3年度と比べて低学力層の割合が減少した教科・学年もあれば、逆に増加した教科・学年もあるように見受けられるので、各種の学力調査結果の分析と活用などを通して、今後も継続的に低学力層の底上げに取り組む必要があります。タブレット端末を使った学習の実施率がかなり高いのは好ましい傾向ですが、それらのICT機器やAIを効果的に活用して確かな学力の育成につなげることが期待されます。

・組織的ないじめ・不登校対策の推進

いじめの認知件数については、小学校で増加、中学校で若干の減少が見られますが、これについては今後も冷静にいじめの実態を捉える努力が期待されます。懸念されるのは、いじめの解消率の低下です。いじめの解消率の目標値85.0%に対して、小学校は令和3年度の80.5%から74.1%へ、中学校は同様に85.9%から66.7%へ低下しており、特に中学校での落ち込みが目立ちます。SNS等の普及によって、今日のいじめは教師や大人の目に見えにくくなっているため、あらゆる機会を捉えて未然防止に努める必要があります。また、不登校については、1,000人当たりの不登校数の目標値（小学校6.0人、中学校33.0人）に対して、小学校では令和3年度の7.4人から9.8人への増加が見られますが、中学校では同様に41.3人から33.4人へとかなり減少しており、中学校での取組の成果が認められます。いじめや不登校への対応においては、学校と関係機関や専門家が一对一で連携するだけでなく、関係機関や専門家どうしの連携も必要になってくると思われるので、学校を核としたより組織的な対応が期待されます。

・新しい時代に必要な総合力の育成

求められる英語力（英検3級かそれ以上の英語力）を有する中学校3年生の割合が令和3年度の41.8%から48.7%へと増加し目標値の50%に迫っていることは、これまでの着実な取組の成果として高く評価できます。新型コロナウイルス感染症の影響で中止していたAPUイングリッシュキャンプが再開され、参加者の満足度が100%、さらに、オンラインで実施した中学生の英会話やわくわく英語ひろばの参加者の満足度もきわめて高いことから、内容の充実した取組が実施されている様子がうかがえます。中学校の英語授業のさらなる改善とともに、新設された英検塾のオンライン講座や、ふるさと学習の主な取組である「まちなみ歴史探検」の今後の展開が期待されます。

B 幼児教育の充実

・幼稚園教育内容の充実

新型コロナウイルス感染症の影響により中止となる研修や協議会がある中、感染拡大防止対策を施しつつ中津市保幼小連携協議会が開催され、園児や小学校1年生の様子の情報交換だけではなく、特に支援が必要な園児の情報共有も図られています。5歳児から小学校1年生の2年間のカリキュラム開発や教職員の研修等、幼保小架け橋プログラムの推進に向けた取組の展開が期待されます。

C 安心安全な学校施設の計画的整備促進

・安心安全な学校施設の計画的整備

中津市学校施設長寿命化計画の方針に則り、老朽化対策だけではなく、トイレの洋式化改修や、教育環境の改善と省エネルギー化推進のための照明LED化改修が適切に実施されています。今後も、改修未実施の施設の改修、屋外トイレの洋式化改修が着実に実施されることが望まれます。

D 学校給食の充実

・地産地消の推進

新型コロナウイルス感染症の影響により、学校給食地産地消推進会議は開催できなかったものの、JAや漁協、生産者と個別に交渉を行う中で、中津市の農産物を使って加工品づくりを行うグループの加工品を、農政振興課の補助金を活用して献立に取り入れることができるなど、取組の成果が認められます。なかつ6次産業推奨品を含め、地場産物の利用拡大に向けた取組が期待されます。

2. 学びたい教育のまちづくり（生涯学習・産業教育の推進）

E 生涯学習の推進

・生涯学習推進基盤の整備及び公民館、コミュニティーセンターの利用促進

公民館、コミュニティーセンター（山国公民館を除く）の年間利用者数が令和3年度より増加したのは、感染拡大防止対策や館長を中心としたPR活動の一定の成果と言えますが、それでもコロナ以前に比べるとまだ半数ほどに止まっています。公民館講座の参加者の減少や自主サークル活動の中止などにも、新型コロナウイルス感染症の影響が色濃く残っている様子がうかがえます。特に高齢者は活動の自粛に加えて、コロナ以前とは身体の状況や行動様式が大きく変わってしまっていると考えられるので、高齢者の体力・健康の維持・増進の観点からも積極的な働きかけや活動内容の工夫が望まれます。

・学習機会の拡充と学習効果の活用

ミャンマーからの留学生弁士の出場もあった全国高等学校弁論大会や諭吉かるた大会などの福澤諭吉記念事業、子ども中津検定やジュニア諭吉検定、ワンパク！たんけん中津などの「ふるさと学習」が着実に実施できたことは、一定の成果であったと言えます。三保人形劇クラブが練習成果を披露する機会を得たこと、3人の小学生が中津ジュニア歴史ガイドとして実際にガイドを行う機会を得たことも、児童生徒の学習機会の拡充と学習効果の活用のための取組として評価できます。

・新中津市学校の活用

慶應義塾より講師を招聘した市民講座や高校生向け講座、慶應義塾大学との共同研究としての「小幡篤次郎関係資料整理」「小幡著作整理作業」「渡辺家資料整理」などが着実に行われていること、また、歴史博物館や福澤記念館と連携した企画展の開催により市民への研究成果の還元が行われていること

は、郷土の先人や歴史に根ざした社会教育の取組として高く評価できます。今後は、不滅の福澤プロジェクトと連携した各種事業の展開が期待されます。

F 教育の協働の推進

・協育による中津の子ども未来創造事業の充実

学校支援活動の回数も支援者数も令和3年度に比べれば増加してはいますが、いまだに新型コロナウイルス感染症の影響が認められます。放課後子ども教室についても明瞭にその影響が見られます。感染症収束後に向けて、協育コーディネーターの配置や各種組織の連携の仕組みの構築を進めていくことが望まれます。

G 生涯学習センター「学びん館」の充実

・生涯学習センター事業の推進

生涯学習センターの年間利用者数が令和3年度より2,000人程度増加するなど、少しずつ利用者数が回復してきている様子がうかがえます。中津市生涯学習大学の受講者数は昨年度並みでしたが、開講式と閉講式、大学祭が4年ぶりに開催され盛会であったことから、学びへの市民のニーズや意欲が存在していることもうかがえます。市民や特に高齢者に対して、学びの場や機会に関する情報が確実に届く手立ての工夫が望まれます。

H 産業教育の推進

・体験学習・遠隔講座等を通じた未来を広げるキャリア教育の推進

新型コロナウイルス感染症の影響により、職場訪問・職場体験の実施が約半数の中学校に止まりました。資料やICTの活用によっても職業観を養うことはできますが、やはり現場での体験や働いている人との交流は中学生にとっては貴重であるので、感染症収束後の取組が期待されます。また、小学生が工科短期大学校のものづくり教室で体験学習を行うなどの新たな取組が進んでおり、これについても今後の展開が期待されます。

・多様な体験の場の活用

約1,200人も参加があった職人フェスティバルは本市の特徴的なイベントの一つであり、子どもも大人も参加できる社会教育の取組として評価できます。高校生や大学生が担当する体験ブースに多くの子どもたちが参加していたことは、学校や家庭以外の場における異年齢交流として大きな意義があります。また、少年少女発明クラブの活動が活発に行われ、大分県発明工夫展入選2人、全日本発明工夫展入選1人という結果が出たことも、取組の成果として評価できます。

I 図書館の充実

・図書館機能の充実

新型コロナウイルス感染症への対策、利用者のニーズに沿った図書館サービスの提供、さらに、中津市の公式ツイッターやインスタグラムへの各種情報の投稿によるPR機能の強化等によりおおむね目標を達成できたことは、図書館機能の充実の観点から評価できます。施設の老朽化が指摘されていますが、明るく清潔で快適な図書館の環境を維持するために、必要な手立てを講じることが望まれます。

・読書活動の推進

図書館が実施する読書週間イベントや、不滅の福澤プロジェクトの関連企画、なかはくとの連携企画等により、積極的に読書活動の推進に取り組んでいる様子がかがえます。また、小学校の社会見学や中学校の職場体験、特別支援学校高等部の現場実習の受け入れは、現在または将来の読書活動の推進につながるものですが、社会教育施設の学校教育への協力という観点からも評価できます。

3. 学びたい教育のまちづくり（文化・スポーツの推進）

J スポーツの振興

・生涯スポーツの推進

感染拡大防止対策を施した上で、八面山平和マラソン大会、キッズボールパーク、オリンピックデーラン、中津市民講座等を開催できたことは、一定の成果であったと言えます。今後さらに、誰もがスポーツを行える機会の創出と環境の確保が期待されます。

・競技力向上及びジュニアの育成

ジュニア期の子どものスポーツ振興や競技力の向上のために、指導者資格を有する人材の育成と確保が進められています。子どもに限らずスポーツ指導の考え方や方法はかつてのそれとは大きく変わりつつあり、スポーツ指導の科学的根拠や倫理を含む研修の充実が望まれます。

・市民ニーズに応えるスポーツ施設の整備や多機能多目的な施設利用

利用者ニーズを踏まえ、利便性向上のための施設の整備、改修や修繕が実施されています。多くのスポーツは体育館やプール、各種の競技場など物理的な環境を必要とするので、今後も着実に整備等を進める必要があります。

K 文化・芸術活動の推進

・文化施設の充実

中津文化会館及びリル・ドリームについて、非常扉更新工事等の施設の修繕・整備が行われています。現在必要な改修等に加えて、施設の老朽化に伴う将来的な建て替えに向けて、計画的な準備を進めることが望まれます。

・文化芸術活動の推進

感染拡大防止対策を施した上で、中津文化会館やリル・ドリームで各種のイベントを実施できたことは、コロナ禍の影響からまだ完全には脱しきれない中で、大きな意義があります。木村記念美術館においては「武田由平展」などの美術企画展を開催するだけでなく、ワークショップや学校への出前授業を行うなど、事業を積極的に展開しようとする姿勢がかがえ、評価できます。

L 歴史と文化の伝承

・文化財調査の充実と保護の促進

有形・無形・埋蔵文化財等の調査・実態把握が進められています。沖代条里の土水路に生息する希少生物調査に小学生の参加を促したり、整備中の長者屋敷官衙遺跡で古代の測量技術を体験しながら史跡整備への意見を聞くイベントを実施したりするなど、市民や子どもの理解や協力を得ながら調査等を進めようとする姿勢がかがえ、評価できます。

・文化財整備・活用の推進

長者屋敷官衙遺跡の重要遺構の発見は、新聞・テレビ等で大きく報道され、一般公開には大勢の見学者が訪れるなど、この種の取組の成果を確認する貴重な機会になったと思われます。今後も、地道に着実に前進していくことが望まれます。また、一万円札の肖像変更を目前に控え、福澤諭吉関連の事業の充実が期待されます。

・博物館を核とした中津市の魅力発信

「大耶馬溪博覧会」の統一テーマのもと、名勝耶馬溪指定100周年を記念する企画展を1年かけて5回にわたり開催したことは、地域の歴史と文化に根ざす博物館の取組として高く評価できます。来館者の増加につなげるための市民主催のマルシェ、JAZZコンサート、琴の演奏等の事業の開催や、大分県の子ども学芸員体験事業での小学校との連携協力など、博物館の機能を積極的に展開していこうとする姿勢もうかがえます。また、津山市、津和野町、本市による三津同盟はおもしろいアイデアで、今後の展開が期待されます。

4. 学びたい教育のまちづくり（教育委員会活動の充実）

M 教育委員会活動の充実

・教育委員会機能の強化

総合教育会議の開催、小学校と中学校、幼稚園への訪問などが適切に実施されています。感染症収束後は、先進地視察等の再開を通して、本市の教育のさらなる発展につなげることが期待されます。

最後に、総合的な所見を述べます。令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響が残りながらも、かなりの事業が予定通り実施された1年になったのではないかと思います。

その中で、今後の課題と考えられるのは、児童生徒の学力・学習の状況です。すべての小中学校で全国平均以上を目指すという目標に対して、それを達成している学校が特に小学校で減少傾向となっています。全国学力・学習状況調査の結果、中津市標準学力調査の結果の分析を通して、どの教科のどの力が弱いのかを明確にして対策を講じる必要があります。低学力層の底上げに成功している学校の特徴の一つは、これら学力調査の結果を活用していることにあるので、本市においてもそのような取組が期待されます。

いじめの解消率が、特に中学校で大きく落ち込んでいることも課題として指摘できます。これは、当事者である生徒どうしの関係を教員が冷静でシビアに観察した結果と言うこともできますが、令和3年度と比べて教員の観察の仕方に変化がないのであれば、やはり数字が大きな意味を持つてくることになります。児童生徒が安心して生活し学習できる環境の実現が望まれます。

社会教育施設については、老朽化の指摘が目立ちました。現有施設の有効活用の観点からは修繕や改修で対応するのが効率的ですが、建て替えが視野に入ってきているのであれば、計画的に準備を進めていく必要があると思われます。最近の社会教育施設は、施設の目的や機能に合わせてハード面で工夫されているだけでなく、子どもや高齢者、障がい者等への配慮が行き届いているなどソフト面でも格段に進歩しています。市民にも施設づくりへの参加を促すなどして、時間をかけて準備を進めていくことが期待されます。

IV おわりに


『中津市教育振興基本計画』においては、計画期間を通じて目指すべき教育の姿、基本構想として、次の目標を掲げています。

「安心づくり」「元気づくり」「未来づくり」を基本として


- ・ 自立する力を育て、社会で活躍できる人材の育成
- ・ いつでも どこでも 学べる環境づくり

これら目標の実現に向けては、さらに以下の（１）から（４）の４項目の達成を図らなければなりません。

- （１）義務教育修了までに、責任ある社会の一員として自立していくための基礎となる、知、徳、体、食にコミュニケーションを加えたバランスのとれた力を育てます。
- （２）学校、家庭及び地域住民その他の関係者が、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力を図れる体制づくりを確立します。
- （３）誰もが生涯にわたり学ぶことができる環境を整備し、文化芸術活動やスポーツに親しむ機会を充実させます。
- （４）地域固有の文化・芸能の継承と保存整備に取り組みます。



自立する力



学習環境

令和４年度においては、４項目を施策別基本目標、２４項目を具体的な施策として取り組んできましたが、全体目標の達成に向けて効果的かつ着実に推進するためには、事業の点検とその結果のフィードバックが不可欠であり、今回の施策評価の過程においても、多くの課題が浮き彫りになりました。そのため、実施した施策について、計画（Plan）→実行（Do）→評価（Check）→改善（Action）のPDC Aサイクルにより適応性や目標達成度、有効性の観点から自己点検・評価を行い、これを市民に公表し、市民の意見等の把握・反映に努め、次年度以降の進行管理を行っていきます。

